

#### 【4】 原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子の時分による一日の生活様態の統計

〔0〕 以上【2】と【3】においては、律蔵の規定と経蔵の教えから仏弟子たちの一日の生活がどのようなものであったかということを見てきた。律蔵の規定は犯してはならない最低限度の生活を表し、経蔵の教えは逆に望まれるべき最高程度の生活を表すと考えてよいであろう。したがってこれらは必ずしも仏弟子たちの生活実態を表しているとは限らない。

そこでさらに経蔵や律蔵の中に残されている、原始仏教時代の比丘たちの生活実態をさりげない形で示していると考えられる記述を調査してみた。もちろんここには釈尊の生活も記されているので、当然ながらそれをも含むことになる。本節ではまず収集しえたそのデータ数を示すことにする。

〔1〕 データは次のような方針で収集した。

〔1-1〕 本データはパ・漢の原始仏教聖典、すなわちパーリの5ニカーヤとヴィナヤ、ならびに漢訳の単経を含む経蔵と『四分律』などの5つの広律から、それぞれの時分にどのような生活をしているかという記述を調査したものである。ただし律蔵の場合は往々にして特殊ケースの実態が残している可能性が高いから、経蔵の記述の調査が中心となっている。

なお本論文は釈尊と仏弟子たちの平均的な一日がどのようなものであったかということを調査することが主目的であるので、そのおおまかな傾向が判れば所期の目的は達したことになるから、厳密な意味での網羅的な調査とはなっていない。したがってここに現れたデータ数そのものにはそれほど意味がないということをご了解いただきたい。

〔1-2〕 データを採取するに際しては、以下のような方針をとった。

- (1) このデータは釈尊あるいは仏弟子たちがそのとき具体的にどうしたというのものだけに限った。たとえば教えとして、朝時には1人で乞食すべきであるといったものや、愚癡の比丘は乞食中にどのようなことをするなどという、抽象的な記述は採用しなかった。
- (2) たとえば「仏弟子が夕方に独坐を起って釈尊を訪問し質問した」という経は、仏弟子の立場からは「独坐を起って釈尊を訪問する」というデータとなるが、これを裏返してみれば釈尊が「夕方に仏弟子の訪問をうける」というデータとなる。しかし本データでは、その文章の主語の立場でデータをとり、受け身の方の立場では取っていない。ただしこれらのデータを分析する際には、上記のような両面からなされるべきことはいうまでもない。
- (3) たとえばある比丘が乞食したという記事がある場合、それが1人でなされたか、数人でなされたか、あるいは集団でなされたかというような付帯的な事項についても注意を注いでデータをとった。その関心のありどころはデータ表の項目を見ていただきたい。とはいいながら実は聖典には乞食の人数まで記述されているものは少ない。記述があるとすれば、たとえば誰々を随従沙門として乞食したとか、誰々と共に乞食したとか、多くの比丘たちが乞食した、というようなものである。もちろんこのような場合は2人とか3人、あるいは多くの比丘としたが、しかし大部分はそのような記述がないので、そういう場合は釈尊も仏弟子もともに1人であると判断した。

律藏の規定を紹介した際にも述べたように、乞食は原則として1人かあるいは長老比丘などは随従沙門をともなつてなされたようであり、しかもサンガ全員が参加する場合を除いては、原則として4人以上の集団で集団行動することは別派活動になるとして禁じられているから、特別に記述されている場合を除いては1人と解釈したのである。なかにはわざわざ「世尊と3人の比丘」とか「通身4人」というような表現があるのはこれを意識したものと思われる。そのような意味では「多くの比丘たちが乞食した」というのも、集団行動をしたことを意味するのではなく、実態は多くの比丘たちがそれぞれ銘々に乞食したということを表したものと考えられる。

- (4) 家に招かれて食事を供応されるケースには、前日から招待を受けているケースと、乞食中にたまたま家に招き入れられて設けの座に坐し、食事の供応を受けるケースがあったものと考えられるが、その区別がつけにくい。そこで明確に前日からの招待であることがわかったり、予めその家を目指しているようなシチュエーションである場合は「予めの招待」と解釈し、その他は便宜的に乞食中の招待と理解した。漢訳聖典には「次第乞食中に設けの座に坐した」というような表現があるからである。
- (5) 原始仏教聖典では同じ1つの事績が異なった経や律に複数回現れる場合があり、本来ならそれらの同定作業を行って、それらを1データとして整理しなければならないところであるが、本データではそれを無視して機械的に処理した。そうすると特殊なケースでも件数が多くなって一般化する恐れがあるが、考察の際にそのようなことがないように注意することにしたい。

[2] 収集しえたデータ数は全部で573件である。このうち「釈尊データ」が242件、「仏弟子データ」が349件である。この2つを合計するとデータ総数の573件を超えるが、それは1つの経に釈尊と仏弟子の双方の情報が含まれているものがあるからである。

[3] まず「釈尊データ」の各項目のデータ数を紹介する。データは本稿の7つの時分区分、すなわち早朝時分、食事時分、午後時分、夕方時分、初夜時分、中夜時分、後夜時分に分けて、それぞれの主要な生活様態をあげた。

また1字下げにしたものはその細目であつて、たとえば乞食ならその人数や乞食中にあつた出来事などをあげた。

データ数は概して多くないから、その割合(%)を出してもそれほど意味はないが、だいたいの傾向を知るために参考になるであろうと考えて計算しておいた。したがって小数点以下は四捨五入してあり、また微調整も施していないので、合計が100%になっていない場合もある。次項に掲げる「仏弟子データ」も同様である。

原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

項 目	数	%	数	%
早朝時分の過ごし方	27	100		
訪問を受ける	8	30		
説法	6	22		
坐禅	5	19		
仏弟子を訪問	1	4		
その他	2	7		
乞食には早かったので遊行者の園に行って問答	5	19		
食事時分の過ごし方	129	100		
乞食	75	58		
乞食の人数			75	100
1人			60	80
阿難と			6	8
ラーフラと			2	3
1人の随従沙門と			1	1
阿和那と			1	1
諸比丘僧と			1	1
不明			4	5
乞食中にあった出来事			35	100
外道と問答する			19	54
出家比丘に法を説く			6	17
バラモンなどに強いてと請われて説法する			4	11
病気見舞い			2	6
ウダーナを説く			2	6
象師が象を放つ			1	3
村人たちが施食しなかった			1	3
乞食中の招待	14	11		
招待された人数			15	100
1人			14	93
阿難とともに			1	7

原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

そのときあった出来事			14	100
教誡			4	29
問答			4	29
病気を見舞い説法			3	21
偈を説かれた			1	7
ラーフラが遺産を求めた			1	7
阿難が食を受けなかった			1	7
予めの招待	40	31		
招待された人数			40	100
比丘サンガと			37	93
世尊を第4とする比丘たち			2	5
ヤサを随従沙門として			1	3
食後にしたこと			38	100
説法			25	66
偈を説いた			9	24
精舎を寄進された			2	5
その他			2	5
午後時分の過ごし方	58	100		
昼日住	46	79		
その場所			46	100
園林・聚林・樹下			21	46
廟・家の近く			7	15
僧院・房			4	9
山			1	2
アノッター池			1	2
特記なし			12	26
そのときしたこと			46	100
バラモン・在家信者・外道などと対話			9	20
さまざまなことを考えた			8	17
出家弟子と対話			7	16
天と対話			5	11

原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

天耳をもって聞く			5	11
七覚支・四念処・三善業などを修習			1	2
特記なし			11	24
遊行	5	9		
説法	3	5		
経行	3	5		
他を訪問	1	2		
夕方時分の過ごし方	91	100		
独坐から起って説法	50	55		
その場所			50	100
講堂・円堂などの集会所			30	60
僧中・大衆前・比丘衆・比丘ら			16	32
その他			4	8
その対象			50	100
比丘ら・比丘大衆・諸比丘			49	98
阿難			1	2
独坐から起って仏弟子を訪問	14	15		
そのときしたこと			15	100
病氣見舞い			9	60
阿難などを訪問			4	27
講堂で特定の比丘に説法			2	13
独坐から起って外道を訪問	10	11		
独坐から起って水浴	5	6		
独坐から起って経行中に説法	5	6		
独坐から起った時比丘の訪問を受ける	2	2		
独坐から起って温室	1	1		
その他	4	4		
夜の時分＝初夜＝の過ごし方	5	100		
坐禅	2	40		
説法	1	20		
仏弟子の訪問を受ける	1	20		

原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

他の人物を訪問	1	20		
夜の時分＝中夜＝の過ごし方	2	100		
十二因縁の作意	1	50		
天眼をもって観察	1	50		
夜の時分＝後夜＝の過ごし方	3	100		
坐禅・経行	1	33		
仏弟子を訪問	1	33		
十二因縁の作意	1	33		

[4] 次に「仏弟子データ」の各項目のデータ数を紹介する

項 目	数	%	数	%
早朝時分の過ごし方	31	100		
比丘尼の住処を訪れて教誡	2	6		
坐禅	1	3		
世尊を訪問	1	3		
その他	12	39		
乞食に出て早かったので他のことをする	15	48		
そのときしたこと			15	100
遊行者の園に行つて問答			12	80
比丘尼の住処を訪れて教誡			2	13
バラモンを訪問			1	7
食事時分の過ごし方	184	100		
乞食	138	75		
人数			138	100
1人			94	68
多くの比丘たち			34	25
2人			7	5
随従沙門と			2	1

原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

世尊と			1	1
乞食中にあったこと			68	100
施食をもらいそこで食べた			2	3
施食をもらい食べて翌日の食事に招待された			3	4
食を得られなかった			1	1
施食をもって帰った			1	1
在家信者の病気を見舞った			1	1
その他			60	88
乞食中の招待	22	12		
人数			22	100
1人			20	91
随従沙門と			2	9
そのときあったこと			19	100
問答			8	42
説法教誡			7	37
その他			4	21
予めの招待	24	13		
人数			24	100
1人			11	46
長老比丘ら			9	38
比丘サンガ			2	8
通身4人			2	8
食後にしたこと			15	100
説法教誡			4	27
問答			3	20
偈を説いた			1	7
その他			7	47
午後時分の過ごし方	187	100		
昼日住	69	37		

原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

その場所			69	100
園林あるいは樹下			59	86
房			5	7
岩山			1	1
セーリーサカの空宮殿			1	1
バラモンの所			1	1
不明			2	3
その人数			69	100
1人			68	99
3人			1	1
そのとき何をした、何があった			69	100
悪魔が現れた（うち27件が比丘尼）			28	41
不善心が起こった（多くの場合天神が現れる）			10	14
睡眠			7	10
王やバラモンなどと対話・教誡			5	7
種々の思いが起こる			3	4
他比丘が訪ねてきて問答			1	1
天と問答			1	1
現法樂住			1	1
その他			2	3
不明			11	16
世尊を訪ねて報告・質問	68	36		
法談	27	14		
その場所			27	100
集会堂（名称はさまざま）			26	96
アチラヴァティー川の岸辺			1	4
誰が誰と			27	100
比丘たちが			26	96
阿難が王と			1	4
集会所にて説法	6	3		
他の仏弟子を訪問	3	2		
遊行	4	2		



原始仏教聖典にみる釈尊と仏弟子たちの一日

昼寝	1	1		
その他	9	5		
夕方時分の過ごし方	107	100		
独坐から起って世尊を訪問	55	51		
独坐から起って他の比丘を訪問	46	43		
独坐から起って法談	2	2		
その他	4	4		
夜の時分＝初夜＝の過ごし方	2	100		
仏弟子同士での法談	1	50		
世尊を訪問	1	50		
夜の時分＝中夜＝の過ごし方	0			
夜の時分＝後夜＝の過ごし方	3	100		
法談	1	33		
経行	1	33		
その他	1	33		